

第1回「地域フォーラム」概要
 開催テーマ「くらしやすく働きやすい奈良を目指して」
 日時 平成25年10月14日(月)13時～15時30分
 会場 奈良県産業会館 5階 大会議室

挨拶・資料説明	荒井奈良県知事 ----- 地域フォーラム開催の挨拶 葛城地域の現状等について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県の人口の状況 ・県内市町村の財政状況 ・奈良県の経済の状況 ・奈良県のくらしの状況 など
取組説明 ①	吉田大和高田市長 ----- 大和高田市の現状と行政の取組について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・大和高田市の財政基盤の確立 ・中和幹線の整備 ・老朽化した幼稚園・保育所の集約 ・小学校の屋上への防災行政無線の設置 ・市内にある観光等の資源の活用 ・観光・産業面での地域の魅力発信 など
取組説明 ②	東川御所市長 ----- 御所市の現状と行政の取組について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・累積赤字解消による財政健全化 ・企業誘致による雇用の確保 ・複数の市町村と連携した観光資源の発信 ・公的資産の効率的な活用 ・畿央大学との包括連携による健康づくり など
取組説明 ③	吉田香芝市長 ----- 香芝市の現状と行政の取組について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・香芝市の財政状況、立地環境 ・組織改編による経済活性化、子育て支援の充実 ・子育て世代・高齢者・障害者への就労支援 ・労働者が働き続けられる仕組みづくり など
取組説明 ④	山下葛城市長 ----- 葛城市の現状と行政の取組について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・葛城市の財政状況 ・合併特例債を活用した老朽化施設の更新 ・住民基本台帳システムの統合による維持管理費の節減 ・学校の耐震化やICTシステム導入による教育の充実 ・企業誘致の推進 ・竹内街道1400年イベントの実施 など
取組説明 ⑤	山村広陵町長 ----- 広陵町の現状と行政の取組について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・広陵町の立地環境、住宅開発の状況 ・職員定数見直しによる経常収支の改善 ・農業振興や企業誘致による産業活性化 ・住民との共同による今後のまちづくりの検討 など

意見発表 ①	<p>涌田氏(大和高田市在住 女性)</p> <p>子供の見守り活動や読書ボランティアなどの地域の学校支援活動について意見発表</p>
	<p>地域の方々と一緒に10年ほど前から、地元の小学生への見守り活動や、小学校での読書の読み聞かせなどを続けていまして、今日はその活動の一端と、活動を通じて感じたことを発表します。</p> <p>まず、児童の登下校の見守り活動ですが、小学校への登下校の際に、立哨ボランティアとして道路脇や交差点に立ち、交通事故などが起こらないように子供たちの安全確保に努めています。この活動は平成16年から始めていて、現在登録ボランティアの数は約70名、そのうち8割が60歳以上の方々となっています。また、自治会でも子供たちの下校時に校区内を巡回し、見守り活動をしています。</p> <p>いずれの活動も子供たちへの挨拶、声掛け、目配りにより、子供たちのちょっとした変化に気付くことがたくさんあります。子供たちへの何気ない関わり、それをお互いに感じ合うことが大切だと感じています。このような活動こそ地域力ではないかと自負しています。</p> <p>次に、読書ボランティアの活動ですが、毎週2回、小学校の教室で朝の授業が始まる15分前の読書タイムの時間に子供たちに本を読んで聞かせたり、紙芝居などを実施していて、読書する習慣への意識付けに大きな役割を果たし、また静かな状態で授業に入る大切さも感じています。</p> <p>平成14年から始めて10年以上続けていますが、子供たちの読書に対する態度や、好きな本に対する傾向なども変わってきています。子供たちが興味を持つように、図書の選択や読み聞かせ方法など、常に仲間たちと話し合いながら活動を続けています。</p> <p>今、社会に目を向けると、学校だけではなく保護者や地域の協力がなくては、子供たちの安全や楽しい環境を維持することは非常に難しい状態になっていると思います。</p> <p>このような地域の見守り活動は、これからますます重要になってきます。地域での見守り活動を続けていくためには、行政からの支援も必要だと思います。</p> <p>大和高田市では、平成20年から始まった「学校支援地域本部事業」、そして平成25年からは「学校・地域パートナーシップ事業」として取り組んでもらっています。また、地域においても、このボランティア活動を通じて世代間の交流の場などのコミュニティづくりに役立っていると自負しています。</p> <p>このように誰もが安心して暮らせる地域、これこそが今日のテーマである「くらしやすく働きやすい奈良を目指して」ではないでしょうか。行政と住民がともに協力してつくっていくことが大切だと考えています。</p>

意見発表 ②	<p>岡川氏(御所市在住 女性)</p> <p>自宅での介護の現状や女性の社会進出に対する支援について意見発表</p>
	<p>女性の社会進出について意見を発表します。数年前に家族の介護を経験しましたが、現在は介護制度が格段に充実していますので、今ならこういう流れになるのではないかと想像も交えて発表します。</p> <p>ある日、突然家族が倒れ、病院に救急搬送されました。脳梗塞でしたが、一命を取りとめました。市役所の介護の係に相談し、介護保険サービスの利用について一連の流れの説明を受け、毎日、病院の治療とリハビリに付きっきりの生活となりました。2カ月経過しても半身に麻痺が残ったので、リハビリを目的として転院し、3カ月リハビリを受けましたが、まだまだ在宅生活に不安が残ります。</p> <p>市役所に介護認定を申請し、1カ月後に要介護2の認定ができました。生活リハビリを目的に老人保健施設に8カ月入所し、私も毎日施設に通って、本人と一緒に生活リハビリのノウハウを学びました。退所が決まると、ケアマネジャーと契約し、介護計画について相談しました。また、退所に合わせ、事前に家に手すりを取り付け、畳を滑りにくいフローリングにし、段差を解消するなど改良工事を行いました。本人、家族、ケアマネジャー、ヘルパー、デイサービスの事業所が集まって相談し、在宅での介護サービスが決まって、1割の負担で様々な在宅サービスが受けられました。</p> <p>2カ月がたち、本人のわがままも強くなり、家族がストレスを感じるようになってきたので、ケアマネジャーに相談して月2回程度のショートステイ(2泊3日)の利用を追加したことで、本人も家族もガス抜きの機会となり、関係性が改善されました。</p> <p>以上が想定される介護のケースで、現在は家族の精神的、経済的負担が相当解消されています。</p> <p>御所市は介護サービス施設が他市に比べて多く、充実しています。しかし、まだまだ県南部、特に御所市のように従来の家族観念が根強く残っている地域では、介護は女性の役割だという考えが多数を占めていると思います。</p> <p>共働き世帯も県北部に比べ南部では少ないようで、私の周りを見ても、ほとんどが専業主婦です。御所市には近くに女性が働けるところがほとんどなく、市外に出る交通の便も悪く、また幼児を安心して預けられる施設も少ないと、女性の社会進出にとって悪いサイクルに陥っていると思います。市民が男女共同参画をもっと理解し、女性の社会進出を少しでもサポートできる施策を打ち出していきたいと思っています。</p>

意見発表 ③	農業氏(香芝市在住 女性)
	<p>子育て支援や家族のメンタルサポートについて意見発表</p> <p>今日は心のつながりをテーマに意見を発表します。御所市長が健康をテーマに話をされましたが、健康は社会貢献という言葉とすぐつながってくると思います。</p> <p>お母さん方が、家庭の人間関係や社会に出た時のストレスケアなどを相談できる場を運営していますが、皆さん言われるのは「やっぱり人だ」ということです。人と人が心を通じ合い、理解し合えることで地域の笑顔を生み出し、元気を生み出すことにつながるということです。</p> <p>しかし、現在の状態では、心のつながりを生み出すことが大変難しいように感じています。まず、心がつながると、安心感という心の安らぎを生むことができます。心の安らぎを生むことにより、ご自身の自信になり、やる気、そしてチャレンジする、行動するという気持ちに変化していきます。チャレンジする心が、想像力や活力、生きる力につながっていくのではないかと感じています。</p> <p>香芝市では「笑顔と元気！！住むならかしば」ということをまちづくりのテーマに掲げています。その笑顔や元気を支えているのは、やはり家庭の笑顔、地域の笑顔であり、地域の潤滑油として情報を収集している主婦にすごくポイントがあるのではないのでしょうか。</p> <p>香芝市長から、経済を回すための女性の社会進出という話がありましたが、お母さん方のメンタルサポートをしている仕事柄、どうしても家族とのつながりをすごく大切に考えてしまいます。お母さん方の心の居場所というもの、最近すごく希薄になっているのではないかと感じています。</p> <p>本当なら家族同士が支え合い、助け合い、心の居場所は各家庭でなければなりません。しかし、お母さん方が、お子さんがまだ小さい頃から、仕事を持ち外に出られる場合が多く、お子さんが感じる家庭の温かみや心の居場所という部分がすごく薄くなり、お母さんを支える場所が大変少ないと感じています。</p> <p>一番大切なのは家族ではないのでしょうか。皆さんは誰とつながっている時に安心できますか。皆さんは本当は誰とつながってほしいですか。大好きで大切にしたい家族のために皆さん、頑張っているのではないのでしょうか。家族や親子のあり方という部分は自身の支えとなる部分ですので、しっかりともう一度基礎づくりをしてもらうことで、健康、家族、社会貢献になりますし、行政からもサポートしてもらいたいと思います。</p> <p>私は心理カウンセラーなので、心の面やメンタルサポートなど、見えない部分の話しかこの場では話せませんが、その見えない部分がみんなの絆をつなげるとても大切な部分だと思っています。</p> <p>お母さんの笑顔が家族の笑顔をつくり、家族の笑顔が地域の笑顔をつくり、そして地域の笑顔が奈良県の笑顔になり、それが想像力であったり、活力であったり、生きる力になるのではないのでしょうか。</p> <p>お子さん達は学校でストレスを抱えて、家に帰ってきます。ご主人も仕事でストレスを抱えて家に帰ってきます。お母さんも仕事に出てストレスを抱えて家に帰ってきます。家にたまったストレスや悪いエネルギーをどうするのでしょうか。今の状態では、そのエネルギーが地域を悪い循環に導き、お子さんたちにも影響を及ぼしているように感じています。地域の中で、家庭の存在というものは、とても大きなポイントなので、地域を活性化し、県を元気にするという部分での家族のあり方を、もう一度考えてもらいたいと思います。</p> <p>そのような大人の悪いエネルギーやマイナスのエネルギーの影響を受けるのはお子さんたちです。お子さんたちの未来や地域の未来を考えるに当たり、ハード面のサポートは充実して、いい地域になってきたと思いますが、ソフト面での人と人の心が通じ合う地域、家庭という部分についても、もう少し行政のサポートを必要とするお母さん方がこの地域にたくさんいるのではないかと感じています。</p> <p>女性は、結婚や出産で悩み、お子さんのことで悩み、ご主人のことで悩み、自分のことで悩み、介護のことで悩み、そして自分の生きがいのことで悩みというように、女性の悩みの問題は変化していきます。その変化に対応できるメンタルサポートの場を、ぜひつくってもらいたいと感じています。県や地域の取組の一つとして進めれば、地域や社会の活性化という部分でのつながりも芽生え始めるのではないのでしょうか。</p>

意見発表 ④	筒井氏（葛城市在住 男性） 自主防災活動や地域の絆づくりについて意見発表
	<p>葛城市の自主防災普及率は、90%以上と県平均よりも高いです。今日は、尺土の安全・安心まちづくりの中で、尺土自主防災組織について発表します。</p> <p>尺土は約800世帯、人口約1,800人で、近鉄尺土駅周辺に広がっている地域で、大和高田市と隣接しています。</p> <p>尺土の自主防災組織協議会は平成19年に設立し、毎年9月の第1日曜日を防災訓練の日として、約300人が参加して訓練を実施しています。協議会には22の隣組、2つの自治会、そして老人会、自警団、子供会、PTAを中心に約80名の役員で構成し、多くても5軒ごとにブロック化し、各ブロックにブロック長を配置しています。</p> <p>ブロック長は災害発生時に安否確認や救助活動をスムーズにできるよう、「助け合い【絆】カード」を作成し、隣組長に提出し、さらに区長に提出してもらいます。「助け合い【絆】カード」には、各家庭の男女別の人数や、その内訳として援護が必要な幼児、高齢者、または弱者等を記入します。カード作成に当たり、プライバシーに関わるため、色々と苦労しましたが、「災害発生時には非常に重要なものになります」と説明を重ね、納得してもらいました。</p> <p>次に、防災訓練の実施方法ですが、防災対策本部を自治会、隣組あるいは各種団体の代表で設置し、情報収集、避難誘導、消火、救出、救護、給食給水、物資保管の7つの班で構成し、13人の区役員を中心に各代表が班長、副班長を務めています。災害が発生した時には、この体制で事に当たることとしています。</p> <p>災害に対しては広く、「自助・共助・公助」が大切だと言われていますが、防災訓練はあくまでも共助のためのものであり、自分の命を守るには自分が一番大切であるということを実感しなければなりません。そのためにも、各家庭に「災害が起こったら、これだけは知っておこう、これだけは覚えておこう、これだけは備えておこう」というチラシを作成し、全市民に配付して冷蔵庫等に張ってもらい、それをいち早く利用してもらうよう指導しています。個々の住民が災害をいつも意識する生活になるには、まだまだですが、「備えあれば憂いなし」と考えています。</p> <p>また、葛城市は阿倍野まで約30分の距離に位置するため通勤者が多く、昼夜間人口比が大体67%となっています。もし平日に災害が発生したら、災害対策本部が果たして機能するかどうかということが今後の大きな課題となります。</p> <p>しかし、災害をより小さくするために最も大切なことは、地域の中での人と人との絆であり、そのために誰でも参加できる季節の行事を積極的に行い、誰もが顔や名前がわかる絆づくりに取り組んでいます。</p> <p>その他、日常的に子供を守る防犯パトロールを実施するとともに、全所帯に腕章を配付し、買い物、散歩あるいは仕事等に必ず着用して外出してもらうよう推進しています。</p> <p>これからもより強く絆を深めていくために、地域のコミュニケーションづくりを大切にし、尺土の自主防災組織がより強固な組織になるよう努めていきます。</p>

意見発表 ⑤	出張氏(広陵町在住 女性) ----- 地場産業の活性化や元気なまちづくりについて意見発表
	<p>靴下製造業という地場産業に従事する家に嫁いだ女性の視点から、この35年の奈良、特に広陵町の変化を感じながら意見を発表します。</p> <p>35年前、広陵町にはスーパーマーケットがなく、隣の大和高田市まで買い物に出ていましたが、今では町内にいくつも大手スーパーがあり、すごく便利になりました。</p> <p>昔の町は地場産業の靴下製造が盛んで、私の家でも残業や昼夜交替制で工場を回す時期もあり、内職回りの靴下を詰めた袋をいっぱい積んだ車をよく見かけましたが、今はそのような車より介護タクシーや介護施設の送迎の車を見かける方が多くなりました。</p> <p>町に大きな新興住宅地ができ、靴下工場や関連の染色、機械工場の跡地も、田畑も次第に住宅地になってきています。週末に家族で食事に出かける場所もたくさんでき、大小の公園が点在していて、子育てや生活するにはとても住みやすくなったと思います。</p> <p>ところがある日の友人の一言で疑問がわきました。真美ヶ丘ニュータウンの住宅地に住む方で、「うちにも老人世帯のお知らせが町から来た」との一言です。40代の頃、新築した家に引越して子育てをし、今は夫婦2人で住んでいます。それを聞き、新興住宅地も30年近くたつと世帯人数が変化し、人も年をとるなら、町も年をとるのだと痛感しました。</p> <p>今、新しい住宅ができ、若者でも30年たてば子供は育ち、親は老いていきます。ベッタウンの便利で住みやすいまちづくりを目指すだけでいいのかと疑問を持ちました。</p> <p>私の家は地場産業の靴下製造をしています。今はとても厳しい時代です。小さいながら何度も転換を図ってきました。昔のような復活を望んでいませんが、今残っている地場産業の灯火を消してはいけなくと頑張っています。広陵の靴下産業だけでなく、日本の文化や人の手仕事などが、全て色々な地場産業の中に活かされていると思います。その町がその町らしくあり、文化産業の一つにそれが活かされていくことが、その町らしさをつくることではないかと思えます。</p> <p>京都の西陣織、泉州や今治のタオル、新潟燕市の食器、調理器具など、地場産業の伝統と技術を伝え、それに新しい付加価値を加えることで、全く新しいものをつくり、地元を活性化して元気にしているまちがあります。若い人の力が地場に残るまちづくり、いろんな世代がまちで生きていけることが町の元気を示すのではないのでしょうか。元気な年寄りが経験や培った知恵に、若者が夢や希望や力やそして新しいアイデアをプラスすることができる、そんなまちづくりが私の思うまちづくりです。</p> <p>私の家は、4世帯8人家族ですが、89歳の元気な主人の母親が今でも助けてくれます。元気で年老いて、介護もできるだけ短い方がみんな助かりますが、人も産業も町も循環していくまちづくりのために、ここに何かヒントがあるのではないかと思えます。</p>

先進事例 発表	<p>明治学院大学社会学部 和気教授</p> <p>「先進事例」研究の視点について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先進事例」の先進とはなにか ・「先進事例」への疑問 ・よい事例とわるい事例 ・評価の視点と方法 ・地域の福祉と地域福祉 など
------------	--

パネルディスカッション

意見①	<p>吉田大和高田市市長</p> <p>涌田さんが意見発表されたように、地域力は、絆やつながりという言葉でも表現されますが、非常に大事で、行政としても地域力をしっかりと醸成していくような働きかけをしていきたいです。地域を地域全体としてとらえるか、地域毎でとらえるかによって、方向や目的、手段が異なりますが、地域ごとに非常におもしろいとか楽しいとか役に立つとか、そういった積極的な活動をそれぞれの地域で一歩ずつ前へ進めていけば、最終的には大きく広まり、良い事業であれば近隣にも移って行って、それが最終的には大和高田市全体の地域力につながっていきます。</p> <p>だから、大和高田市全体の地域力をこういう形で上げていくということも考えていますが、パッチワーク的な考え方で地域力を醸成していきたいです。例えば、福祉施策の中では高齢化社会や独居家庭などの問題が出ていますが、最終的に地域力は地域愛、郷土愛につながり、色々な世代、色々な状況の人が何らかの関わりを地域で持ち、その最終形が全体につながっていきます。</p> <p>全体から個々を考えるという考え方もありますが、個から始まって全体へつなげていく、そういう両方の施策がこれから必要ではないかと思えます。</p> <p>そのような考え方の住民を一人でも多くして、行政としても説明責任を果たし、ご理解を得て協力していただけるような方向性をしっかりと示していくことが、これからの行政の仕事ではないかと思っています。</p>
-----	---

意見②	東川御所市長
<p>岡川さんからの女性の社会進出の発表の中で、御所市内には女性の働く場所が少ないという指摘がありました。その通りだと思います。行政としてそういう場づくりをしっかりとやっていく必要があると思いますし、知事からの資料説明でも御所市は弱いと出ています。</p> <p>御所市には大型店が少なかったですが、新たに大型店が立地し、そこで23人の女性の雇用が生まれました。全部パートですが、こういう積み重ねが非常に大事であり、行政としてしっかりと場づくりをしていかなければいけないと思っています。</p> <p>もう一つ少し相反する意見になりますが、介護が女性の役割になっているという意見も発表されました。これには色々な問題があると思いますが、逆に男性が頑張らないといけない部分が見えてくると思います。</p> <p>私は健康まちづくりを進めていかなければいけないと思っていますが、この部分でも男性がものすごく弱いです。色々な健康講座をやっていますが、参加者の殆どは女性です。男性が一線を退いた後の対処といいますが、高齢化すれば、今後こうしたことが行政の大きな問題になるのではないかと考えています。しかし、このようなことがクリアできれば、女性の役割分担も一定軽減できる可能性もあると思います。</p> <p>コミュニティや絆が住民の方々全員の意見発表に関わっており、やっぱりこれだという思いを改めていたしました。特に、御所市のみならず、他の地区でもこれから高齢者が増えていきます。高齢化の中でのコミュニティづくり、男性の役割、女性の役割について行政として今後もしっかり考えていかなければなりません。その中で行政がすることは、場づくりと機会づくりだと思います。</p>	

意見③	吉田香芝市長
<p>農業さんから「心のつながりが健康、生きがいややる気につながる。大切なのは家族。」という意見が発表されました。働く女性が増えつつありますので、それを支援するような施策が多くなっていることは事実ですが、家族を大切にすることや、母親の笑顔が子供に与える影響が非常に大きいということは十分承知しています。</p> <p>香芝市では、例えば子育てやDV、法律の相談や、「きゅうぴいクラブ」のように色々な経験者と話をして不安を解消する場を作ったりするなど、ストレスや悩み事の解消に取り組んでいます。</p> <p>また、この春から新しく保健センターを立ち上げ、そこに県下初、日本でも初めて近く、心の悩みを聞く場として臨床心理センターを設けました。この上期にも発達障害や未熟児など色々な悩みを抱えている方が数多く来られています。こうしたことで少しでもよくなり、家庭で子育てに活かせればいいのではないかと考えていますので、そのようなことにも力を入れています。</p> <p>香芝市の幼稚園には、一番多いところでも子供が8割ほどしか入っておらず、5割を切るところもかなり多いです。一方、保育園は満杯状態で、現在待機児童が6、7名おり、さらに0歳児からの保育や小学校6年生までの保育についての希望が出ていて、やはり働く女性が持つニーズというのは非常に多いです。</p> <p>しかし、安心して働いていくためにも、現役世代や現役を引退された方、経験をたくさん持っている方との交流を図り、子育てに対する心配やストレスを解消することが今後必要ではないかと思っています。</p> <p>少し話がずれますが、生きがいややりがいを促進するため、香芝市では今まで色々なところに補助金を出すやり方をしていました。しかし、本年から、一定の審査のもと、住民の方々が自分たちでプランを立てたことに対して補助していきます。つまり、開いた口に資金を投げるやり方ではなく、自分たちが計画したものに対して広く市民のためになるか判断し、資金的な援助をさせていただく。そうすると、自主的に計画を立て実行し、それが市民のために、または自分たちのスキルアップ、満足度のアップになり、市民の力を借りて実現するような形に変えつつあります。市民を主役にして、市政の一端を少しでも担ってもらえるような形に変えるよう努めています。</p>	

意見④	山下葛城市長
<p>筒井さんから防災について意見発表がありました。行政がやるべきことは防災訓練、または災害用の応援協定を企業等と結び、互いに協力する体制などをつくること、そして、住民の方々に見やすい地域防災マップをつくることです。地域防災マップについて、葛城市にある44自治会すべてに市職員を派遣し、災害時の避難ルートを地域毎に地域の方々と一緒に現在作成しています。</p> <p>また、来年度予算から44自治会の公民館に備蓄する防災用備品を補助対象とし、各自治会で備えていただけるようにしていきます。</p> <p>先ほど住民の方からも、色々コミュニケーションをとり、絆をつくるという意見が発表されましたが、まさに、人は城、人は石垣、人は堀で、人こそ全てです。</p> <p>行政は住民の方々幸せに暮らせるまちづくりをサポートするために存在すると思っています。その一環として、私は、市内44自治会をサテライト市役所という形にできないかという構想を持っています。先ほど話した自治体クラウドのように、各公民館で住民票が取れるような体制にして、そこに職員や職員のOBが常駐できるかどうかなど、人件費も含めて検討が必要ですが、公民館をしっかりと活用しながら、住民の方々が集まれる場所をつくっていきたくと思っています。</p> <p>お茶の水女子大学の外山滋比古先生が井戸端会議の効用を言われています。地域の方々世代を超えて交流できる場所、いきいきサロンやふれあいサロン、お年寄りだけでなく子供との交流もできる場を公民館につくり、色々な相談がこの井戸端会議を通じてできるようにしたいと思っています。真の住民自治をつくり上げ、その補完を行政がするように、その方法や予算立てについて考えています。</p>	

意見⑤	山村広陵町長
	<p>出張さんが意見発表されたように、広陵町の靴下産業には100年の歴史があり、高度経済成長期には町の税収の殆どを靴下事業で占めていたほど盛んな業種でした。この業界で100年間に培われた靴下製造技術は日本一・イコール世界一とも自負されています。この製造技術をしっかりと守り育てていくことが、これからの課題になると思います。</p> <p>どう守っていくか、付加価値をどうしていくかなど、なかなか難しい面がありますが、価格競争に巻き込まれないものづくりをしっかりとすることに尽きるのではないかと思います。そのためにも、業界の方々もしっかり協議し、行政としてどのような支援が必要か突き詰めて、一緒になってタイアップしていかなければならないと思っています。</p> <p>広陵町の産業については、地場産業である靴下産業だけでなく、農業もあります。農業離れもどんどん進んでいますので、町で農業塾を行い、新たに農業に就農する方々を育てていきたいと思っています。以前はイチゴの特産地でもあったので、出来れば来年度辺りから県のカも借りて、イチゴの産地を復活させる取組を進めていきたいと思っています。また、県立馬見丘陵公園もありますので、県のカも借りて進めていけば、観光産業としても注目されるのではないかと思います。</p> <p>この葛城地域を挙げて観光連携していくとのことですので、その中にも取り入れていきたいと思っています。</p>
意見⑥	涌田氏(大和高田市在住 女性)
	<p>大和高田市長から、パッチワーク的に地域で特徴を生かすという意見がありましたので、地域、地域で頑張っていきたいと思っています。</p> <p>しかし、行政の力とはとても重要ですので、できるだけ地域住民のために協力いただきますようお願いいたします。</p>
意見⑦	岡川氏(御所市在住 女性)
	<p>御所市長から、場づくりと機会づくりという意見がありましたが、子育て世代の女性がフルタイムで働ける場と安心して子供を預けられる場があり、シルバー世代の方々の協力を得て、地域ぐるみで赤ちゃんからお年寄りまで見守っていけるようなまちづくりをお願いしたいと思います。</p>
意見⑧	農業氏(香芝市在住 女性)
	<p>メンタルサポートにより母親の笑顔を支えることで、臨床心理士の配属などに力を入れているという香芝市長からの意見に大変安心しました。</p> <p>行政の窓口や、スクールカウンセラーなどにメンタルサポートをお願いしたけれども分かってもらえなかったという人が、私のところに来られるケースがとても多いので、市民が無料で安心して相談できる場があり、相談に行った人が、「本当に行ってよかった」、「気持ちを分かってもらえた」、「解決策が見つかった」と言えるようなサポートについて、今後も検討していただきたいと思っています。</p>
意見⑨	筒井氏(葛城市在住 男性)
	<p>葛城市長から、公民館を活用したふれあいサロンについて意見がありましたが、高齢者や幼児の方々など、これらの公民館を使った触れ合い、そして絆というものを今以上にしていだけたらありがたいと思います。</p>
意見⑩	出張氏(広陵町在住 女性)
	<p>靴下産業も色々な力が必要だと思いますが、会社も人なりですし、地域も人なりだと思います。</p> <p>新しくすることばかりが先進的だと言われますが、私たちは広陵町で生まれた機械、古い機械を使って品物を作り、付加価値をつけて売っています。町も全て新しくなればいいのではなく、古い農業も活かしておいしい野菜を作れば売れると思います。そういうやり方でどんどん活性化していけばいいと思います。私たちも頑張りますので、地域の方々にも頑張ってくださいと思います。</p>

大和高田市の涌田さんから通学路の見守りや読書ボランティアについて意見発表がありました。安全な通学路は大事ですので、随分貢献いただいていると思います。

通学路は教育委員会が決めています、本当に安全かどうか、すぐ点検するよう教育委員会に指示していき、安全かどうかをどのように判断しているかも点検し始めました。

地域のボランティアの方に支えていただくことは大変ありがたいことです。通学路の場所を決めることと、通学路の安全性や環境整備に力を入れようと思っています。

読書ボランティアについても感心しました。これは行政と住民協力の一つのパターンで、PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ)とあるように、行政側からパートナーになりたいという意思をぜひ伝えたいと思っていましたので、大変心強いです。

本読みで教育するという点について、教育は学校だけでも家庭だけでもできません。では、地域でどうするのかということ、地域教育力サミットで言っています。教育力には学力だけじゃなく、奈良県が劣っている体力、規範意識、学習意欲などの大事な点があります。統計は総合評価ではないと和気先生は言われておりますが、これらは評価そのものであり、統計こそ真実を伝えていると思います。奈良県の生徒の学力、体力が低い、規範意識が低いということをよくするという意欲を駆り立て、エネルギーを出さないといけないので、それを地域で何とかしたいと思っています。

御所市の岡川さんから発表のあった女性の社会進出や介護についてですが、奈良県の女性の就業率は全国で一番低く、年代別で見ると、社会増で大きく増えた時の就業率はずっと低いままです。ところが、その後、奈良に来た方々のM字カーブは右肩上がりになっています。つまり、女性の社会進出についての世代差が奈良県でもあり、それが回復することで、就業率も回復してくるようになると思います。

最初に奈良に来られた方は、学校も保育所もあり、父親は大阪でちゃんと給料を稼いでいたので、その時に女性の職場が余り視野に入っていなかったのではないかと思います。今や女性の働きやすさや買い物が大変大きな要素になってきていると思います。

御所市長が言われたように、女性にとって近くの職場が何よりです。パートもありますが、できるだけ正規で拘束時間が短い職場をつくるという課題があります。構造的に作っていく必要がありますし、また女性の専門職を育てるということで、女性の翻訳家を育てる予算をつけて、文献を英語に訳す専門職も育てようと考えています。

介護については、家族介護、施設介護、最近では地域介護をどうするかということで、地域包括ケアシステムをどうやってつくりあげていくかが課題です。これは最重要課題として一生懸命やりたいと思いますが、家族介護から施設介護になり、地域介護をどうつくり上げていくかということについて、広島で少し進んでいますが、十分つくり上げた地域はまだありません。

香芝市の農業さんから発表された意見も印象的でした。健康は社会貢献だと御所市長も言われていますが、私は社会貢献以上のもの、健康でいることは国民の義務だと思います。税金を納めるより、健康でいて、支出しない方が貢献が高いと思われる世の中ではないかと思います。

健康、特に女性へのメンタルヘルスサポートについての意見もありました。これはなかなか難しいですが、大事なことです。それとともに、女性のワーク・ライフ・バランスが大事だという面もあると思います。

家庭でDVがある時の受け皿となる相談窓口は市にも県にもありますが、気が遅いとか受け身的で家庭の中になかなか入っていけないということがあり、行政サポートをどうするかということが課題です。

違う分野になりますが、赤ちゃんや育児期の女性が孤立してはいけないという発想から、田原本で赤ちゃんを抱いて一緒に集まる女性の井戸端会議をつくっています。一緒に来て、遊んで、話すことでストレス解消になります。

奈良県は精神科医が充実していませんので、女性外来の精神科医をつくらないといけないということにも気が回りましたが、女性外来の精神科医というのは多少入りにくいところもあるので、その辺りの医療のサポートも必要です。

また、市でもそうかもしれませんが、県にも鬱になっている職員が多く、これは女性に限ったことではありませんが、どのように対処するかということが大きな課題になってきていますし、家庭あるいは社会の中でも鬱が大きな課題だと思います。

その時に、サポートできる人の質のキャパシティを上げるということ、行政職員へのサポートについても、これから頑張らないといけないということに気がきました。対応する人の能力をどの程度上げるのか、またどのようにして上げるのかということが今課題になっていき、課題を共有化させていただきました。

葛城市の筒井さんは、自主防災に随分力を入れていただいているようで、頭が下がります。自主防災は自主防犯にもつながり、とても大事なことです。特に奈良県は県外通勤者が多く、災害が平日の昼間に起きた時は大変です、犯罪が起こる確率も高くなります。

住宅地の犯罪は、振り込め詐欺や空き巣がとて増えています、どのあたりで犯罪が多いのかということもわかってきています。大和高田市は自転車窃盗が多く、犯罪率が高かったのですが、自転車窃盗は防犯施設をつくと減る傾向があります。自転車窃盗は入り口犯罪と言われていき、そういう入り口にも入らないことが、犯罪者を育てないためにもとても大事なことだと言われています。

防犯防災は連携して大変なことです、行政との接続が大変重要ですので、心して取り組みたいと思います。

広陵町の出張さんからは、靴下産業についての意見が発表されました。香芝、葛城の新興住宅地でもオールドタウン化して寂しい場所があり、これは一つの課題です。賑やかな町にし、高齢者も外出して元気になってもらえるよう、どうやって賑わいをつくるかということは私たちの共通の課題です。高齢者の健康のためにも外に出て楽しんでもらい、元気をつけることが地域共通の課題であると私たちが思っていることをアピールさせていただきました。

もう1つ思ったことは、産業でも、文化でも、活動でも、その町なりというものがあるのではないかとことです。私にとりまして、奈良なりということがあり、それを強調して勉強していますが、その町なりということとは最大の資源だと思います。また、靴下は元気のもとであり、産業的にはどう生きるか難しい面もあると思いますが、靴下を履かない人はいませんので、どのように足に付けてもらうか考え、来年、東京のデパートで初めて観光物産展をしたいと思っていますので、奈良の靴下というブランドをアピールすることが町の誇りにもなると思います。

皆さんのご意見を参考にして、仕事に活かしたいと思います。

総括	明治学院大学社会学部 和気教授
	<p>国の借金は1,000兆円を超えそうであり、奈良県の各自治体から財政構造が改善したという報告もありましたが、やはりお金がありません。しかし、お金がないから何もできないということではなく、アイデアが重要になるのではないかと思います。</p> <p>少し前にNHKの番組でご近所の底力という番組がありましたが、地域の力をどのように使うのかということが非常に重要であり、アイデアを実現するためにも必要です。</p> <p>注意しなければいけないことは、行政ができないので、あとは地域でやってくださいということではなく、要するにパートナーシップ、お互いに協力し合うことが大事だということです。そういう意味では、行政も変わらなければいけません。従来の延長線上ですればいいということではなく、やはり首長の経営感覚のようなものも必要であり、地域をどのように経営していくのかという感覚もこれから求められるのではないかと思います。</p> <p>同時に、地域住民の方も変わらなければいけません。今までと同じように何でも行政がやってくれるということではなく、自分たちでできることは一体何なのかを、自分たちなりに考えていくことが必要だと思います。</p> <p>全体を通じて、PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ)、行政と住民がどのようにパートナーシップ、協力、協働していけるか、それが非常に重要だと思います。それにより、新しい地域社会、コミュニティをつくり、よりよい社会ができるのではないかと思います。</p> <p>ぜひ奈良県が行政と住民の協力のもと、いい県になってもらいたいと思います。</p>